

## ①6 大井筒井坂の牛頭如来？とは

作州津山城下の東口、津山市玉琳で出雲街道から北へ分かれた因幡道（津山～黒尾峠～鳥取智頭）が押入へ向けて越える「飯綱坂」の北口、中国自動車道の南側に丸みのある自然石に「大日如来」と彫り込まれた碑が3基立っています。

右の写真はその中で一番大きなもので基礎石も含めておよそ160cm。正面左に文久元年（1861）四月廿日、施主當村 市蔵とあります。

当時、神仏混合の時代において、「仏」の大日如来は「神」としては皇室の祖神である「天照大神」ということ…なの



津山飯綱坂の牛の供養塔



さんたわの伝牛の墓

ですが、この最高クラスの仏様に市蔵さんは、果たして何を祈念したのでしょうか。

実はこれは牛の供養塔なのです。このような石碑は、作州一円に散在しており「美作の自然と文化財を守る会」の調査によれば、およそ150基以上見受けられるとのこと

です。昔の農家で牛は最も大切な家畜であったことは言うまでもなく、内厩舎といって母屋の中で家族同様に大切に飼育されました。その病気や死は経済的にも大変な痛手でした。そのため、万人講をつくり牛が死ぬと、新たな牛の購入を助け、死んだ牛の供養を行いました。供養塔は、こうした

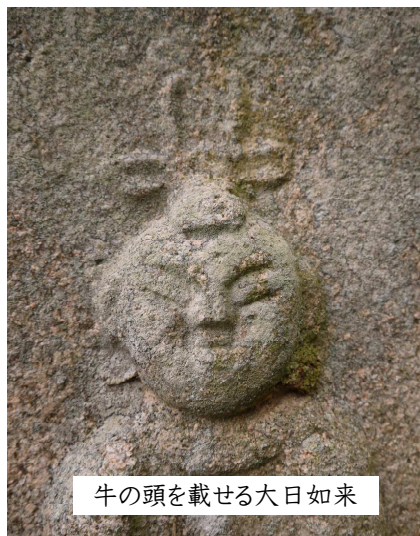
援助を受けた農家により牛への感謝と供養、そして購入した牛の安全を祈って建立されました。必ず頭の丸い自然石を用い、往来からよく見える場所に立てるのが習わしです。（宮澤靖彦「広野の歴史散歩」：高野小学校「むかし高野」）

さて我が大井には歴史散歩をする風流人もおらず、古今を記す史料はありません。しかし、口伝えながら、津山「飯綱坂」の牛の供養塔と同じものが大井筒井坂から足守深茂に通じる峠さんたわ（オノ嶮）の北口にあることが分かりました。

そのひとつは、ブロック囲いの祠に窮屈そうに納まる丸みを帯びた自然石がそれです。「大日如来」とはありませんが、地元では牛の墓



さんたわの大日如来



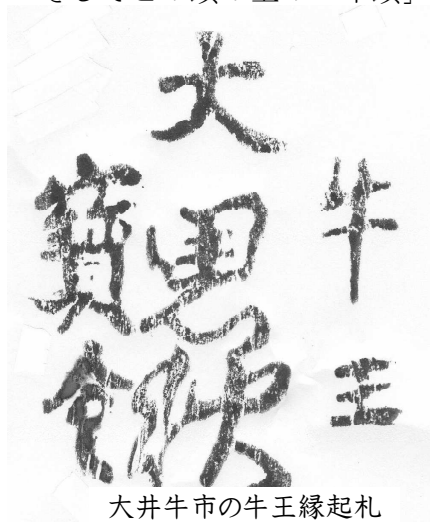
牛の頭を載せる大日如来

と伝えられています。そしてもうひとつ、この祠と道を隔てた池の堤に立てられている船形石の「大日如来」2体も同じく牛の墓と言われています。大変面白いことに、左側のものは正面左に「大日如来」、台座に岩月と刻み、如来の頭上に「牛の頭、(今回は特別に牛頭と呼びます。)」を乗せているのが分かります。

岡山県内広しといえどもこれ程「牛」への気持ちが込められたものを見付けることは思っただけでも気の遠くなる話です。申請すれば、なんぞ希少種の文化財になるやも知れません。

ともあれ、「大日如来」をもって牛の供養が行われたことを証明するものでしょう。

そしてこの頭の上の「牛頭」ですが、下へ「天王」と付



大井牛市の牛王縁起札

ければ「牛頭天王」となります。岡山県内では真庭市落合の木山神社に祀られていることが知られています。本来は家内安全・疫病退散などの神様ということでしょうが、

「牛頭」の二文字が先行して、新見市哲西あたりでは「天王さん」と呼ばれ、木山神社の御守札が牛を守護する神として厩舎に貼ってあったそうです。(哲西町教育委員会「哲

西の神ほとけ」)

そしてまた我が大井ですが、「牛頭天王」を牛の守護神としたという史料を見ることはありません。しかし、大井の牛市で配られた縁起札に牛王の二文字があるのを見ますと、この地でも牛頭天王と牛の間に何等かの因縁があったのではないかと推察できます。

そして今回の最後は粟井佐古の題目石。山ノ田川を挟み八幡宮の南にあります。享保4年(1719)に立てられたもので功德施主當村看經講中とあります。昔この地区では、牛が死んだときここでお経をあげたということです。

南無妙法蓮華經・南無妙法蓮華經…まさに内厩舎で飼われたものにこそふさわしいお看經でありましょう。



宮畦の丸石形大日如来



粟井佐古の題目石